



2025-2030 STRATEGIC PLAN

November 2024



VISION

Closing the gender gap in the technology field

私たちはテクノロジー分野のジェンダーギャップ解消を目指します。

テクノロジー分野のジェンダーギャップが解消された状態とは、

性別にかかわらず

誰もが平等にITやテクノロジーにアクセスし

個々の能力や努力が正当に評価され

成長やキャリアの機会が平等に提供される

社会が実現している状態を指します。

VISIONを実現するには、下記の4つの状態が必要だと考えています。

教育機会の平等

- 女子・ノンバイナリーの中高生や大学生が、プログラミングやIT関連のスキルを身につけられる環境が整備され、ロールモデルと出会え、その結果、自分自身でキャリアの設計ができるようになる。
- 性別にとらわれず、IT分野に関心を持つすべての生徒・学生に対して公平な内容の教材・カリキュラムが提供され、学びやすい教育システムが存在している。

DEI&Bが浸透している職場環境

- 女性が、管理職や技術職、研究職などのあらゆる役職に就くことができ、キャリアを築ける環境が整っている。

ジェンダーステレオタイプの払拭

- 「女性は技術職に向いていない」などのジェンダーに基づく偏見やステレオタイプが存在せず、性別を問わず個々の能力と意欲が尊重される。
- メディアや企業が、女性技術者やリーダーのロールモデルを積極的に紹介し、ジェンダーにとらわれないキャリア選択が促進されている。

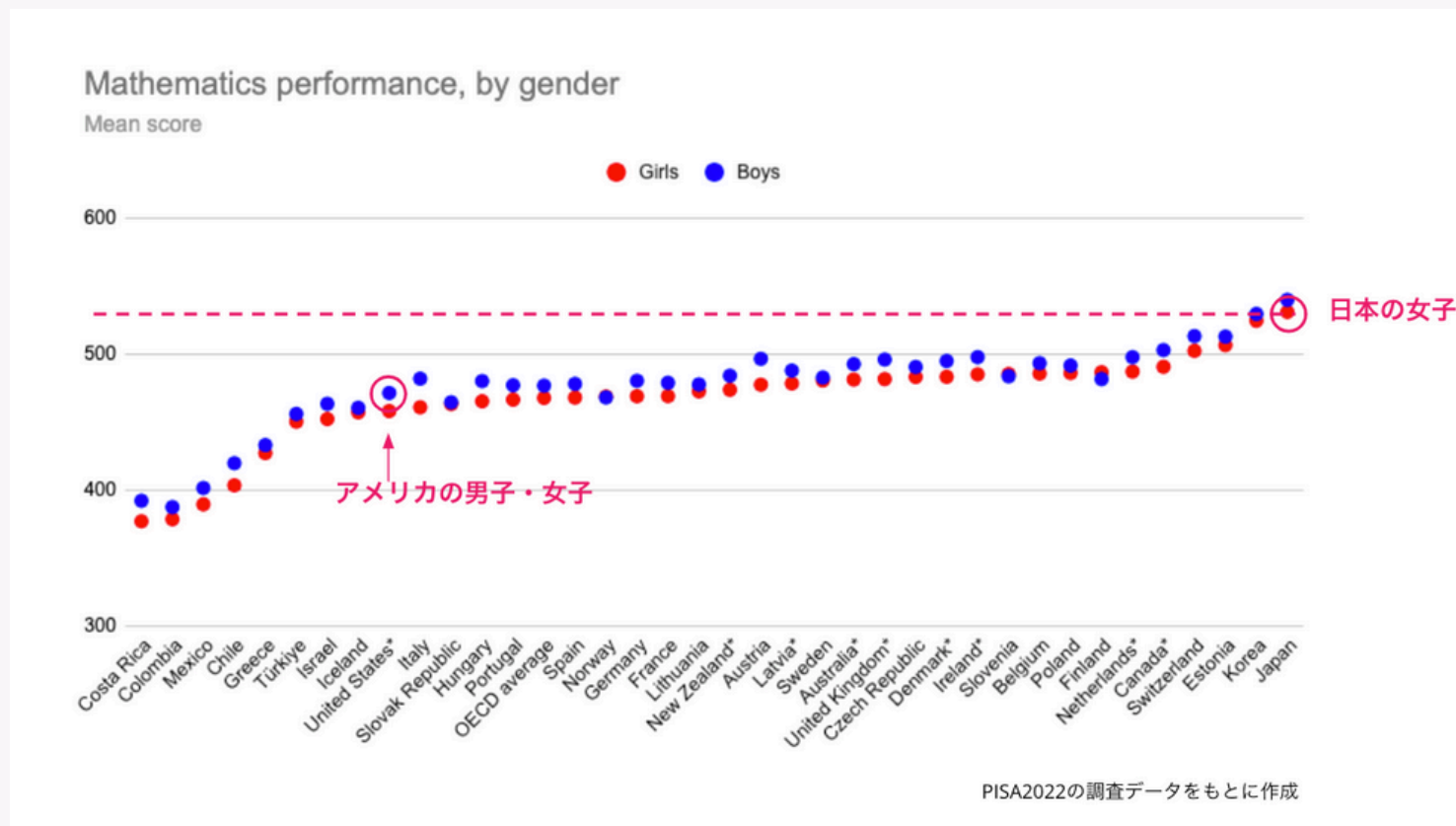
公平な賃金と待遇

- 同じ職務、同じスキルレベルであれば、性別に関係なく同等の報酬を得られる。
- 昇進や評価基準において、性別によるバイアスが排除され、公正なキャリアパスが提供されている。

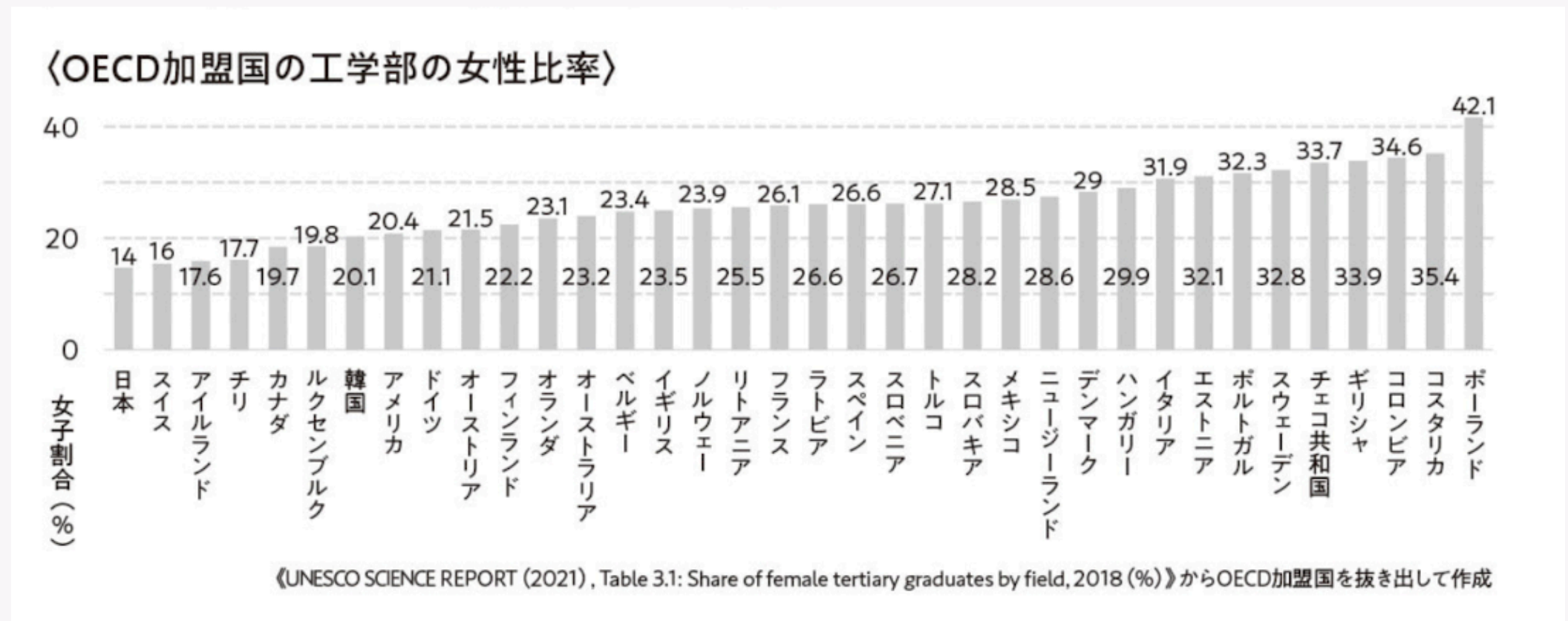
CURRENT STATUS OF GIRLS IN JAPAN

日本の女子学生の学力は国際学習到達度調査「PISA」でトップレベルであるにもかかわらず、工学分野の大学入学者に占める女子の割合はOECD（経済協力開発機構）加盟国の中で最下位です。

Strength 強み 理数系学力世界トップレベル

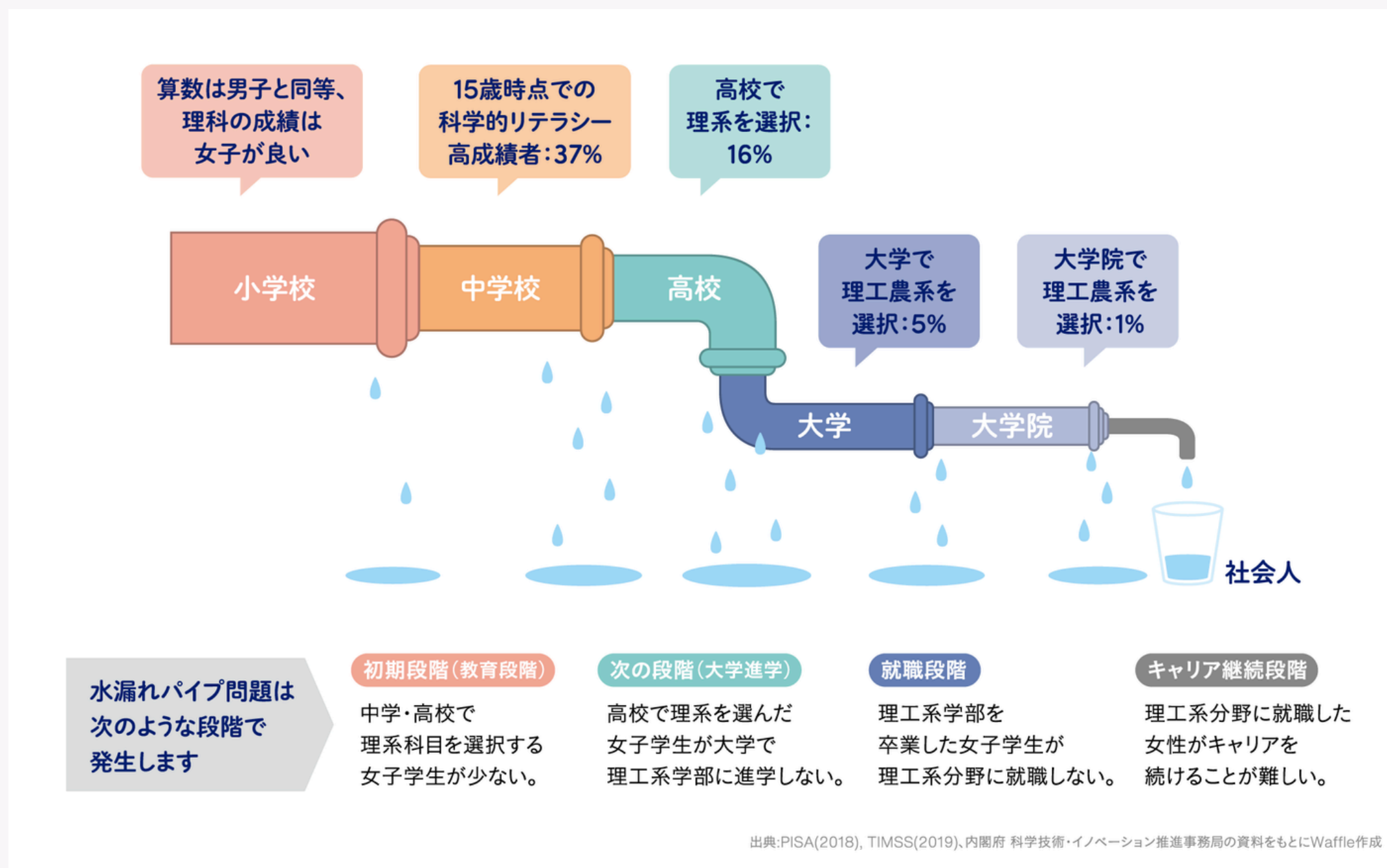


Challenges 課題 工学部の女子比率OECD最下位



CHALLENGE

進学やキャリア形成の各段階で科学技術分野の女性が減少していくこの現象は「**水漏れパイプ問題**」と呼ばれています。この現象の要因には、**社会の構造的な問題**が深く関わっています。日本では高校生の段階で文理選択・進路選択があり、その選択の時点で理系進路を選択する女子生徒が少ないことから、**中高生の段階から介入を行うことが非常に重要**だと考えています。



STATEMENT

JOIN the movement to change the technology landscape

日本では今、テクノロジー分野のジェンダーギャップ解消に向けて、各ステークホルダーがスタートラインに立っています。

Waffleが設立された2019年当時、IT分野のジェンダーギャップ解消という取り組みは大きな社会問題として捉えられてはいませんでした。

設立から5年が経った現在、各大学の理工学部で「女子枠」が導入され、文部科学省「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の予算が増加しました。また、経済誌「Forbes JAPAN」が「テクノロジー領域で世界を変える30人」の特集を組むなど、大学、政府、メディア、企業の取り組みが加速しています。

次の5年、つまり2030年には何を達成すべきか。

私たちは2030年に見たい世界を言語化し、ステークホルダーの皆さんとともに、その世界を実現するために行動を起こしていきたいと考えています。



HERE IS WHAT WE WANT TO ACHIEVE

女子とノンバイナリーの テックリーダーが生まれる社会をつくる

日本では、まだまだ女性が管理職や経営層となる道が限定的であり、意思決定の場に女性が少ない構造が、男女の賃金格差や女性の課題が軽視される現状を生み出しています。現在の不平等を残したままデジタル化が進むと、既存の格差がさらに拡大する恐れがあります。

私たちは、女性やノンバイナリーの多様な視点や経験を取り入れて、テクノロジー分野でイノベーションが生まれる状態をつくることで、社会の構造変革をめざします。

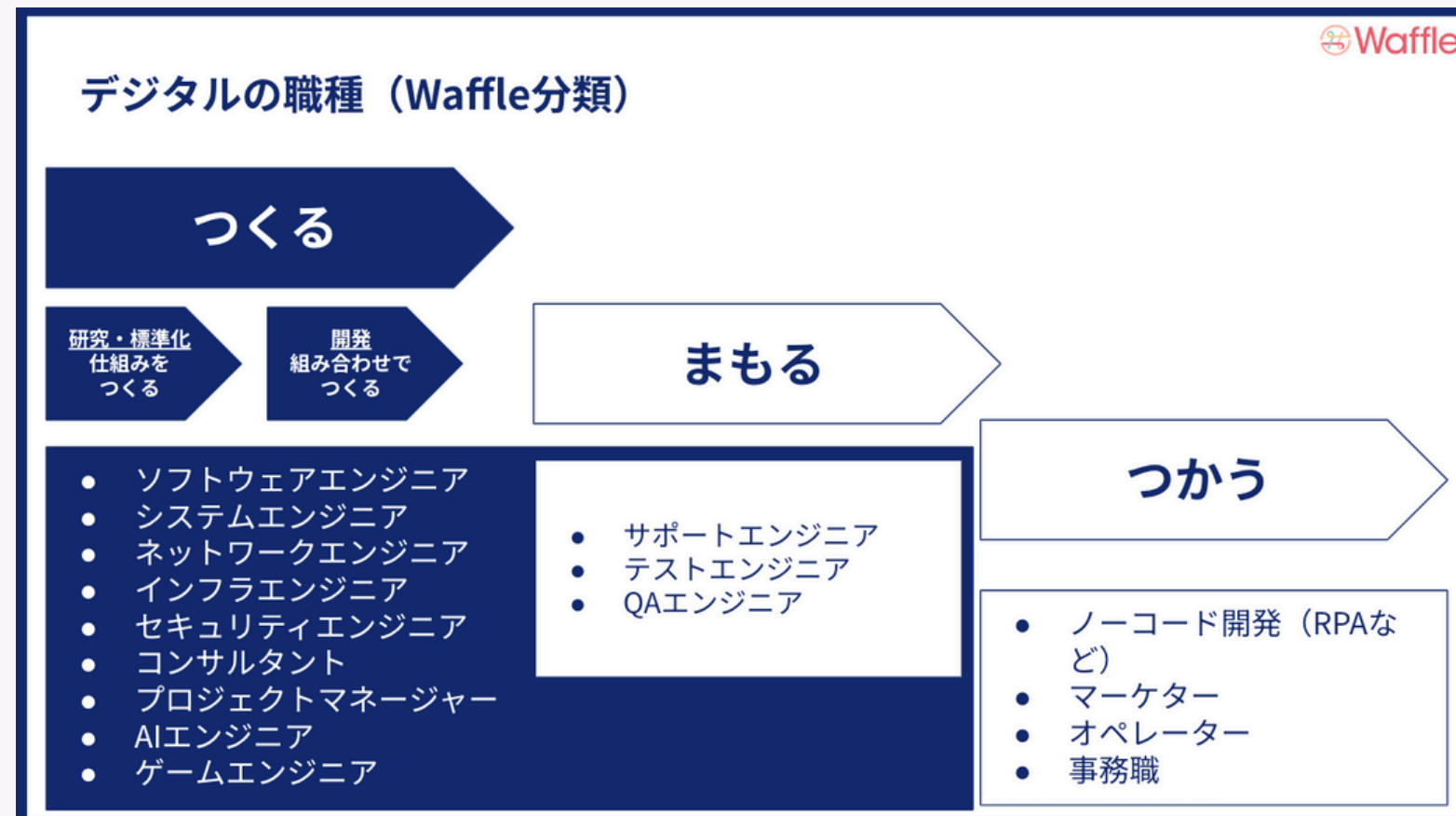


女子とノンバイナリーのテックリーダーが生まれる社会をつくるために必要なこと

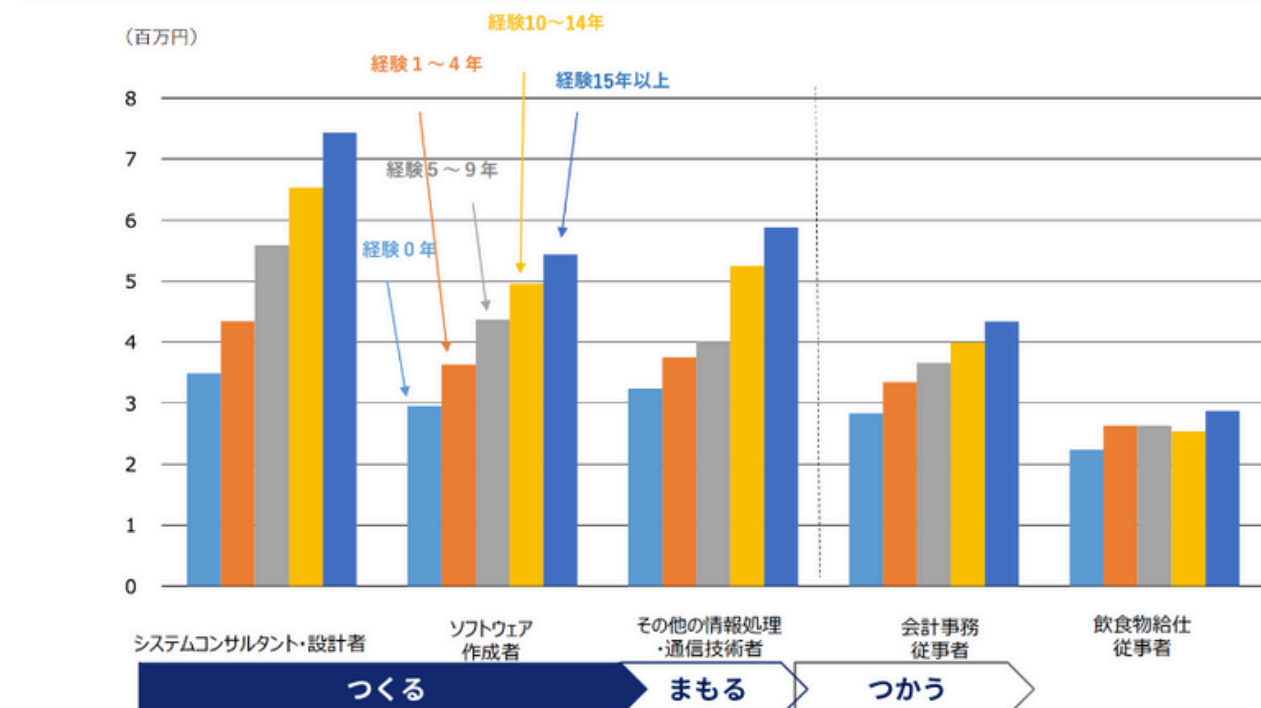
「つくる」技術が身につく教育を届ける

私たちは、デジタル技術を使って社会を変革する「テックリーダー」を育てていきます。テックリーダーを輩出するために、私たちは「つくる」経験を提供し、デジタル職の中でも高収入な仕事へのキャリアパスの選択肢を女子とノンバイナリーに提示します。これにより女子とノンバイナリーの経済的なエンパワーメントも行う、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ※を取っています。

※ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ：既存のジェンダーに関する課題や規範を構造的に変革させる方法のこと



デジタル分野で働く女性は、経験年数に比例して順調に年収が伸びており、女性の所得向上の実現を期待できる成長分野となっている。



(備考) 厚生労働省「令和3年賃金構造基本統計調査」より作成。

Source: 内閣府

女子とノンバイナリーのテックリーダーが生まれる社会をつくるために必要なこと

チャレンジできる環境を整える

テックリーダーが生まれる社会をつくるには、テクノロジーを使って自分を表現し、社会を変える担い手となる経験を積めるような環境を整えることも重要です。これまで接してきた生徒・学生たちの声をもとに、中高生や大学生が自分の可能性を信じ、テクノロジーを身につけ新しい挑戦をしていける、下記のような状態を作り、提供していきます。また、私たちは生徒・学生を応援するとともに、大人がそれを支援する社会を作っていきます。



最初の一歩の提供

PC/Wi-Fiの無償貸出
1Day講座の実施 など

プログラミングをやる機会も環境もなかった。家に自分が使えるPCがなかったのでPCの貸し出しもありがたかったし、無料で参加できたのもありがたかった。環境がない人たちに手を差し伸べてくれたのがありがたい。

(Technovation Girls過去参加者)



ステレオタイプがない環境

女子/ノンバイナリー限定プログラム
ジェンダー講座の実施 など

Technovation Girls、なんで女性かノンバイナリー限定なんだろう...と最初は正直思った。けど、そうでなければTG参加後にインポスター症候群になってたし、「私なんか」って思ってたんだろうな。開発系は結構任せてただろうなと思う。(Technovation過去参加者)



キャリアに繋がる経験

IT企業へのオフィスツアー
キャリア講座の実施 など

Waffleに参加してITエンジニアになってみたいと思ったり、エンジニアとして働いている人や海外の大学でCSを学んでいる人の話を聞くと、今やりたい事がだんだん明確になってきた。

(Waffle College卒業生)

HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

ジェンダーインクルーシブな環境で学ぶ仕組みを日本全国に広げる

私たちは、全国に女子とノンバイナリーのテックリーダーが生まれる社会をつくるには、日本全国で女子・ノンバイナリーの中高校生・大学生が参加しやすい教育プログラムを継続的に提供することが重要だと考えています。



日本全国で

IT・デジタル関連の産業や企業は、東京に一極集中しているため、首都圏以外の学生がこの分野で働く技術者に会ったり、教育プログラムに参加したりする機会が限られています。

地方に根ざす環境を用意することで機会格差の是正を目指します。



ジェンダーインクルーシブな環境づくり

ジェンダーインクルーシブとは、性別によって差別や排除がなく、男女やジェンダーマイノリティが公平に参加できるように配慮し、すべての人が平等に力を発揮できる環境を作ることを行います。



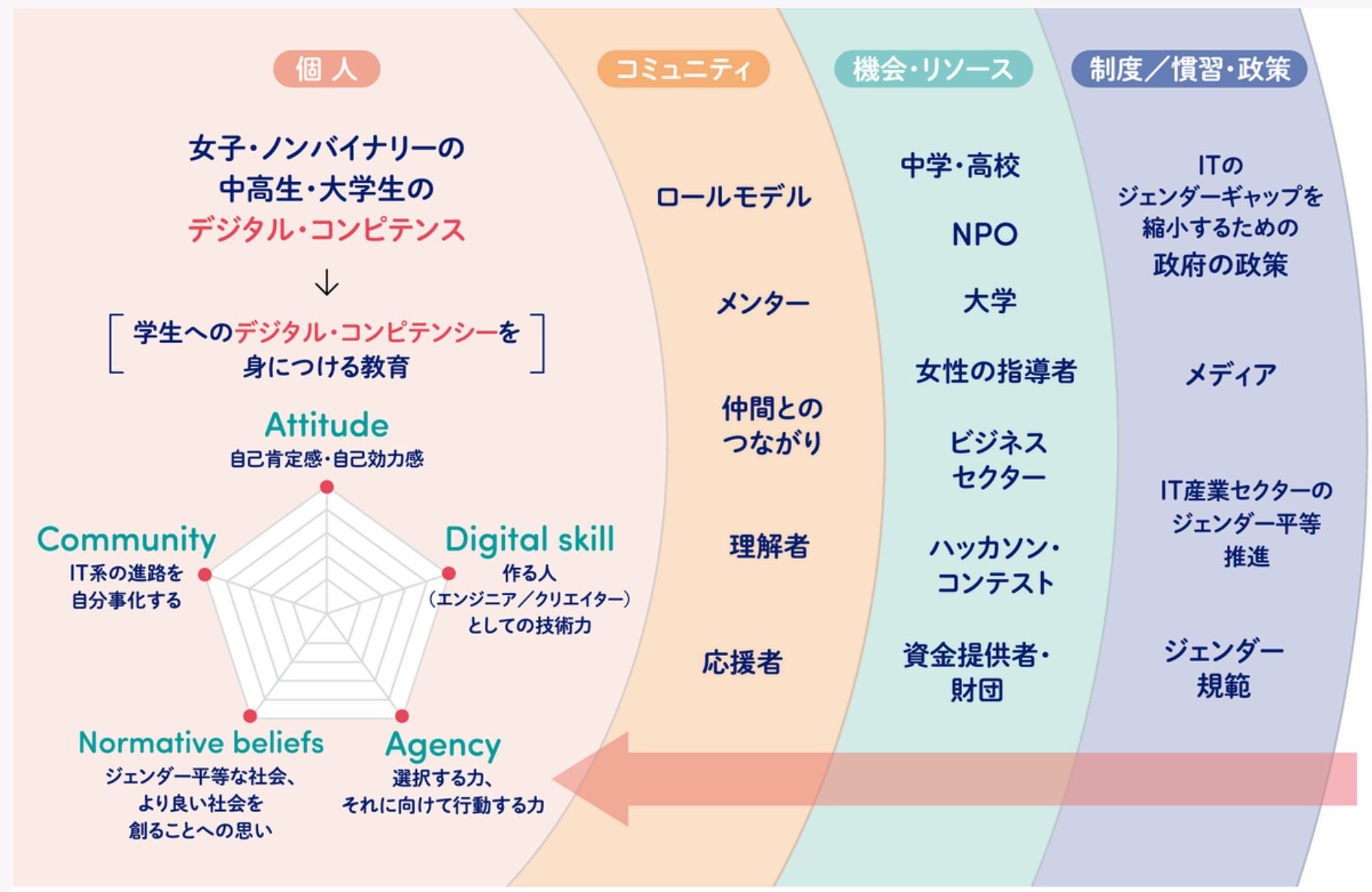
仕組みを広げる

地方で継続的に機会を提供するためには、個人のボランティア精神に頼るのではなく、継続できるリソースが成立していることが重要だと考えています。継続的に学生に機会提供できるモデル都市をつくり、その仕組みを広げます。

HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

OUR STRATEGY

私たちは2030年までに全国で女子とノンバイナリーの生徒・学生がデジタルをジェンダーインクルーシブな環境で学ぶ仕組みをつくり広げていきます。そのために、生徒・学生個人への教育のみならず、生徒・学生を応援し変革を促す大人のコミュニティの形成、他の組織への啓発、そして政府への提言の4つのステークホルダーに同時に働きかけることで、社会全体のシステムを変えていきます。



HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

OUR STRATEGY

個人（生徒・学生）

デジタルコンピテンシー を身につける教育

ジェンダーギャップが深刻な日本社会において、学生たちがデジタル社会に平等に参加できるように、プログラミング技術だけでなく、5つの要素を兼ね備えた「デジタル・コンピテンシー」を育む教育を提供する。

機会・リソース

他組織でのジェンダーインクルーシブな 機会提供の働きかけ

Waffleだけではなく、他の企業や教育現場でジェンダーに配慮した教育や機会・リソース提供が行われるように連携・協力をする。

コミュニティ

IT技術を学ぶ女性やノンバイナリーを 応援するコミュニティの形成

女性やノンバイナリーでプログラミングに興味がある仲間やロールモデルに出会える場所の創出を行う。また、IT分野を学ぶことを後押しする先生・企業・保護者を増やすことで、生徒・学生が自信を持って理工系を選択できるようにする。

制度/慣習・政策

政策の優先度を上げるための 政策提言、世論形成

「骨太の方針」などに女性の理工系進路選択の予算増加を目指した提言を行うと同時に、IT/STEM分野のジェンダーギャップが大きな社会課題であるという認識をつくるための世論形成を行う。

HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

OUR STRATEGY

個人（生徒・学生）

デジタルコンピテンシー を身につける教育

ジェンダーギャップが深刻な日本社会において、生徒・学生たちがデジタル社会に平等に参加できるように、プログラミング技術だけでなく、5つの要素を兼ね備えた「デジタル・コンピテンシー」を育む教育を提供する。



Goals

- 全国（とくに地方）の生徒・学生に機会を届け、プログラミングだけでなく、ジェンダー平等な社会に必要なリーダーシップや考え方をもつテックリーダーを育てる。

Success measures

- デジタルコンピテンシーを定義し、短期的な成果の変化をデータ化し、モニタリングする。
- 各教育プログラムの総参加者数に対する地方参加者の割合を各地域の人口比率に近づける（1都3県以外の参加者比率7割を目指す）

※デジタルコンピテンシーとは、Waffleが独自に定義したAttitude, Digital Skill, Agency, Normative Beliefs, Communityの5つの要素を指す。

HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

OUR STRATEGY

Goals

- (生徒・学生) 国内最大級のテクノロジーを学ぶ女子とノンバイナリーの生徒・学生向けに次世代エンパワメント・コミュニティをつくる。
- (支える人たち) 地方にジェンダーな環境をつくり、デジタルを教えられるメンターが存在する地域コミュニティをつくる。

Success measures

- Waffleのプログラムの過去参加者の約3割がメンターやサポーターとして活躍しており、定期的なプログラム・勉強会への継続参加率が8割以上である状態。
- 地域コミュニティのモデル都市を全国に5都市作り、機会提供が継続され、他の都市にも広がっている状態。

コミュニティ

IT技術を学ぶ女性やノンバイナリーを 応援するコミュニティの形成

女性やノンバイナリーでプログラミングに興味がある仲間やロールモデルに出会える場所の創出を行う。また、IT分野を学ぶことを後押しする先生・企業・保護者を増やすことで、生徒・学生が自信を持って理工系を選択できるようにする。



HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

OUR STRATEGY



機会・リソース

他組織でのジェンダーインクルーシブな 機会提供の働きかけ

Waffleだけではなく、他の企業や教育現場でジェンダーに配慮した教育や機会・リソース提供が行われるように連携・協力をする。

Goals

- Waffle以外の組織が、全国（とくに地方）でジェンダーインクルーシブなプログラミング教育の環境を3年以上継続して提供するためのリソース（ヒト・モノ・カネ）の獲得手段を確立する。
- ジェンダーインクルーシブな環境や学びについて定義し、地域のメンターに浸透している。

Success measures

- Waffleとパートナーとなった組織が全国の5都市で自走し（Waffle・自治体以外の予算で運営）、3年以上、機会提供をしている。

HERE'S HOW WE'RE CHANGING IT

OUR STRATEGY

Goals

- 多くの政府関係者や自治体、議員がテクノロジー分野のジェンダーギャップを理解している。
- デジタルに関するあらゆる政策にジェンダー視点が入れられる。

Success measures

- 政府関係者や議員に本分野の課題が理解がされており、デジタルや関連教育に対するあらゆる政策に多様性や女性比率などジェンダー視点の文言が記載されている。
- 地方でテクノロジーを活用しジェンダーギャップを解決する人材が生まれ、活動を継続できる政策が生まれる。
- アジア諸国の女子のSTEM教育におけるネットワークを構築し、アジア諸国と日本のベストプラクティスを生み出す。



制度/慣習・政策

政策の優先度を上げるための 政策提言、世論形成

「骨太の方針」などに女性の理工系進路選択の予算増加を目指した提言を行うと同時に、IT/STEM分野のジェンダーギャップが大きな社会課題であるという認識をつくるための世論形成を行う。



Contact

- For more information, contact
 - info@waffle-waffle.org
- And learn more at:
 - <https://waffle-waffle.org/>
 - FB : /Waffle.org
 - X : @waffle_org
 - Instagram : @waffle_org
 - LinkedIn : <https://www.linkedin.com/company/waffle-org>

JOIN US IN MAKING THIS BOLD VISION A REALITY